

家庭の燃えるごみの中には、リサイクル可能な紙ごみがまだ約12%あります。紙ごみの種類としては様々ですが、紙類は分別することで資源となり、ごみを減量することが出来ます。今回、ごみ減量大作戦の第1弾では「紙ごみ救出作戦」として、紙ごみを資源物として救出し燃えるごみを減量、これによりふだん使用している指定袋の大きさを一つ小さいサイズに変更することを目標にします。

週に指定袋を2枚使う世帯の場合、「週に1枚は一つ小さいサイズのごみ袋を使う」を実践すると、家庭ごみの燃えるごみは年間で約1,400トンの減量が見込まれます。



年間約100袋(週に2袋)使用される世帯では1年で約750円の節約にもなります。



紙ごみ救出作戦目標値

平成28年度
11,908トン

目標 12%減
10,500トン

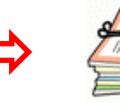
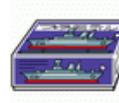
家庭の燃えるごみ

作戦方法

見つけよう紙ごみ



- ① 雑紙(紙袋、ティッシュの箱、食品やお菓子の箱、はがきや封筒、コピー用紙、トイレットペーパーの芯、包装紙、カレンダー、洋服などの台紙やタグなど)は、うっかり燃えるごみにしてしまいがちですが「紙類の日」に出せます。ティッシュの箱や食品・お菓子の箱などは、ビニール類を外して折りたたみ小さくしましょう。小さい紙などはまとめるのが大変ですが、大きい紙袋に小さい紙を詰めるなどすれば、散らばったりしません。雑紙は、雑誌などと合わせて「紙類の日」に出すようにしましょう。



雑紙(ざつがみ)

雑誌など

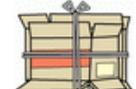
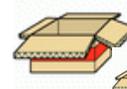
【ご注意】「紙類の日」に出せない雑紙もあります。以下のものは「燃えるごみ」に出してください。

- ・ラップの芯など硬いもの(硬い芯は水に溶けないため再生できません。)
- ・カップ麺のふたなど撥水加工してあるもの
- ・防水等コーティングしているもの
- ・写真など加工してあるもの
- ・カーボン紙など複写できるもの
- ・紙製の卵パック
- ・ファックス、レシートなどの感熱紙類
- ・和紙
- ・シール類
- ・汚れや匂いのひどいもの

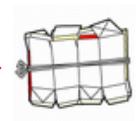
- ② 新聞は最も多く出る紙ごみの一つです。そのほとんどが正しく「新聞の日」に出され回収されていますが、折り込み広告は新聞に出せないと勘違いして「燃えるごみの日」に出されている場合があります。折り込み広告も「新聞の日」に出せますので新聞と束ねて出しましょう。



- ③ 段ボールは、折りたたみ保管しても結構かさばります。毎週少しずつ「紙類の日」に出すようにすれば出すときに負担になりません。段ボールは新聞紙と同じく優れた再生率を誇る優等生です。小さい段ボールも「燃えるごみ」に出さないで「紙類の日」に出しましょう。



- ④ 牛乳パックは、中身を洗う必要があるため手間のかかる紙類です。ですが牛乳パックは上質な紙でできているため、トイレットペーパーやティッシュペーパーなどに生まれ変わる大切な資源です。牛乳パックは「燃えるごみ」に出さないで「紙類の日」に出しましょう。



【ご注意】内側がアルミコーティングされているものなどは「燃えるごみ」に出してください。

- ⑤ 参考書など書籍やコミックなどの本は、古本買取業者などを利用するなどすれば買い取ってもらえることもあります。まずはリユース先を探してから「紙類の日」に出すようにしましょう。